

二月二十六日(水)

平成二十六年 度 金沢学院大学 入学試験問題 (一般入試B)

国 語

(注意事項)

国語と記入・マークした解答用紙に解答しなさい。

(解答上の注意)

解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、10 と表示のある問いに対して④と解答する時は、下記の(例)のように解答番号10の解答欄の④にマークしなさい。

(例)

解答番号	解 答 欄
10	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

第1問 次の文章を読んで、後の問い(問1〜8)に答えよ。

文学とは何であろうか。文学はどこから始まるのか。何がどうなると文学になるのだろうか。人は今生きていることを言葉で表わし続ける存在である。言葉なしに文学はありえず、言葉があるから文学も生まれた。文学の中身を一言でいえといわれれば、それは「うた」と「ものがたり」に尽きるであろう。愛する人へのせつない想いや亡くした人への悲しみの想い、あるいは喜びや浮かれるような楽しい想い、労働などつらい苦しみなどなど、思わずうたわすにいられない、もしくはうたを聞かずにいらなくなる、そういう状態になるときがある。それは a なものでありつつ、同時に b に深く関わり、時代社会や地域にも根ざし、その制約も受ける。あるいは、人はものごとの由来やいわれ、事の起りを知らずにはいられない存在でもある。日常生活の談話をふりかえってみれば我々の話題はそういうものばかりのはずである。人間は シゲンにとらわれた生き物だといってもよいだろう。そうした事の始まりを説いて語る、それが「ものがたり」の始まりである。

文学など役に立つのか、という議論をしばしば耳にする。自然科学や生命科学が隆盛の現代にあつて人文学系は何となく旗色が悪いから、なおさらそういう問いかけには負けそうな感じがする。しかし、役に立つとはそもそもどういうことだろうか。それがいつ、どこで、どのように役立つのか、あるいは効果があらわれるのか。その問いかけ自体、すでに 功利的な即効性への過信と過剰な期待があり、目に見える成果への渴望や待たなしの要請や強圧がある。人文系は人間の教育効果と同じで、すぐには眼に見えにくい。後から影響が出てくる。時間がかかるし、すぐさまかたちになりにくい成果だといわざるをえない。自然系でも基礎科学の分野は同様で、家族でクラゲを取り集めたのがノーベル賞につながり、数十年後に評価されるような例もある。また一方で文学など役に立たないものだからこそ価値があるのだという、なかば開き直りに近い逆転の見方もよくあるが、はたしてそうだろうか。これも疑問である。

人間の想像力や感性を育て、磨きあげるのが文学の力であり、その表現の起りや方法など文学のあり方を追究するのが学問研究にほかならない。わかりやすい例でいえば、日々の生活を取り巻く季節感、四季折々の景物は、詩歌、ことに和歌によって形作られてきた。「花」と言えば「桜」という常識は『古今集』に始まるように、今日にいたるまで 脈々と受け継がれてきている。そうした美意識や感受性、感性を養うばかりか、生活や人生の節々で必要な決まり文句、こういう時にはこういう言葉でこのように表わす、といった表現の定型がある。定型表現や決まり文句、諺や故事成語などを育んできたのも文学のわざである。かつては誰でも知っていたような知識が失われてきているのは、従来の家族や共同体が変質したり解体してきたことに キーンする。共有される知の共同体の基盤が変わってしまったからだといえる。美学や詩学の重要性が見失われることが結果として想像力を枯渇させる要因にもなっている。想像力は創造力に通ずる。想像力豊かな言語感覚を磨くためには文学にふれることが最適であるが、文学を必須の教養とする社会基盤が今は弱い。

人は生きる限り思い通りにゆかない。フニヨイを抱えて生きる存在であるから、その思いのたけを言葉やしぐさ、あるいは絵画や造型そのほか様々なかたちで表わそうとする。それが「うた」や「ものがたり」となつてあらわれ出る。最も根元的な表現の行為であり、自分でうまく表わせないとき、他の誰かが表わしたものに共感したり同化して思い入れをして受けとめ、我がものとしていく。表わすことと受けとめることとは表裏一体である。(中略)

人は悲しいとき、嬉しいとき、苦しいとき、人恋しいとき等々、様々な感情や思いをうたに託してうたう。自分でうたうだけではなく、誰かのうたを聞いたりする。うたのない人々の生活は考えにくい。「うた」は歌、詩、謡、詠や歌舞音曲も含めた広い概念で使いたい。古典では和歌が中心にあり、そこから派生した連歌や俳諧なども当然含まれる。後の狂歌、川柳なども同様である。能の謡曲や漢詩も含まれる。詩歌や歌謡を広くまとめて「うた」とする。なかには時代を超えてうたいつがれるものもあり、「うた」は特定のリズムやメロディ（旋律）があり、記憶と結び付きやすい。難しいことも「うた」にすると覚えやすくなるし、「うた」を聞くとその時代の感覚や雰囲気、気分が甦ったりする。うたうことで一時的にでも我を忘れ、また我が身を奮い起こす。カラオケでストレス解消するのが典型であり、孤独を忘れて仲間との共同性に（⁴）身をゆだねる場合もある。

一方、「ものがたり」はすでに『万葉集』からある古い言葉で、これもなじみやすい言葉だ。「ものがたり」というだけで何か（⁴）ナツかしい思いがしてくる。その基本は「誰がどうした」、であり、必然的に仮構されたものである。事実や史実を扱ったといっても、それをそのまま完全に復元することはできない。言葉によって語られ、文字に書かれることで一定の枠組みを与えられ、ある程度の型や完結性をもつように仕組まれる。語り手や再演者の思想やイデオロギーから自由ではありえない。すでに現実や実体とは切り離されてしまう。仮構とは虚構、フィクションにはかならず、ノンフィクションといってみても同じである。再現、再演、再生、再創造されるのが「ものがたり」なのである。「ものがたり」は繰り返される。それが共同体で意味をもち、必ず身につけるべき知識になり、共有され、そのつど意味づけを与えられ、更新されていく。（中略）

以上のような「うた」と「ものがたり」をひとまず文学として括っておこう。文学は「文芸」と言い換えてもよい。現代では、文芸という「芸術」の意味合いが強いが、古典ではむしろ、「芸能」に重きを置いた方が実情になっっている。

時代によって姿を変える「うた」や「ものがたり」の様相や流れをまとめて整理する、それが文学史にほかならない。人が常に家族や恋人、友達、同僚等々、他の人を意識して生きていくように、文学もまた常にほかの作品やジャンルを意識しているものである。先行するものから大きな影響を受けたり、反発して意識的にずらしたり、（⁵）テツテイテキに批判したり、その対応の仕方は様々であるが、いずれにしてもそうした先行のものを無視しては成り立たない。また、意識するしないを問わず、同じ時代や社会、共同体で制作されたものにはおのずと共通するものがある。その時代特有の世界や表現、息づかいのようなものがある。あるいは、前の時代を（^c）し、総括したりする動きにもつらなる。後の時代からどのように（^c）されていくか、再生、再創造の営みや仕組みをも見据える必要がある。それらのありようを読み解き、ほぐして見通せるようにすることが文学史の営みでもある。

文学には作り手がいて受け手がある、その相関関係で成り立つ。双方が文学の担い手ともいえる。作者や語り手と同時に聴衆や読者がいて初めて文学は生かされる。読まれ、聞かれ、伝えられて生きるものである。そうした関係性を生み出す場がなければ文学行為は成り立たないだろう。

繰り返せば、いつの世にも文学は生み出され、受け継がれてきた。文学はなくなならない、常に必要とされてきたわけで、その意味で文学は役に立つのである。

問1 傍線部①～⑤の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は 1 ～ 5。

① シゲン

1

- ① 老人問題にゲンキユウする。
 ② カンゲンのしらべを楽しむ。
 ③ ゲンキな声で答える。
 ④ 活力のゲンセンは家族である。
 ⑤ 彼の自慢話がサイゲンなく続く。

② キイン

2

- ① チーム力の弱さがハイインだ。
 ② 横町のごインキョに相談する。
 ③ 読後のヨインを楽しむ。
 ④ ダイガクインを目ざして頑張る。
 ⑤ インズウをそろえる必要がある。

③ フニヨイ

3

- ① イシンデンシンによって悟りの境地に達する。
 ② 柔道のゴクイを会得する。
 ③ 机のイチを変える。
 ④ ジンイを加える。
 ⑤ ハクイの天使。

④ ナツかしい

4

- ① シンアイなる友に手紙を書く。
 ② 恩師の死をアイトウする。
 ③ しみじみとジュツカイする。
 ④ キョウジュンを誓って共に行動する。
 ⑤ 経験者をユウゲウする。

⑤ テツテイテキ

5

- ① 発言のテツカイを求める。
 ② テツヤで原稿を書く。
 ③ 彼は人生テツガクを持っている。
 ④ ガスのテツカンが破裂する。
 ⑤ 前車のテツを踏む。

問2 この文章は、その内容から大きく二段落に分けることができる。二段落と三段落の書き出しの部分として最も適当なものを、次の①～⑨の中からそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は、二段落Ⅱ 6、三段落Ⅱ 7。

- ① 文学など役に立つのか、という議論をしばしば耳にする。
 ② 人間の想像力や感性を育て、磨きあげるのが文学の力であり、その表現の起こりや方法など文学のあり方を追究するのが学問研究にほかならない。
 ③ 人は生きる限り思い通りにゆかないフニヨイを抱えて生きる存在であるから、その思いのたけを言葉やしぐさ、あるいは絵画や造型そのほか様々なたちで表わそうとする。
 ④ 人は悲しいとき、嬉しいとき、苦しいとき、人恋しいとき等々、様々な感情や思いをうたに託してうたう。
 ⑤ 一方、「ものがたり」はすでに『万葉集』からある古い言葉で、これもなじみやすい言葉だ。
 ⑥ 以上のような「うた」と「ものがたり」をひとまず文学として括っておこう。
 ⑦ 時代によって姿を変える「うた」や「ものがたり」の様相や流れをまとめて整理する、それが文学史にはかならない。
 ⑧ 文学には作り手がいて受け手がいる、その相関関係で成り立つ。
 ⑨ 繰り返し返せば、いつの世にも文学は生み出され、受け継がれてきた。

問3 空欄 a・b に入る語句の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 8。

- | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| a | a | a | a | a |
| 個人的 | 究極的 | 刺激的 | 社会的 | 本能的 |
| b | b | b | b | b |
| 共同体 | 神秘性 | 実体験 | 倫理性 | 非日常 |

問4 傍線部ア「文学など役に立つのか、という議論をしばしば耳にする。」とあるが、「文学は役に立つのか。」という質問に対して、筆者は、文学とはどのようなものであると考えているか。その説明として、次の①～⑦の中から、筆者の考え方に合うものを①、合わないものを②として答えよ。解答番号は①＝9、②＝10、③＝11、④＝12、⑤＝13、⑥＝14、⑦＝15。

- ① 文学は、いつ、どこで、どのように役立つのか、あるいは効果があらわれるのか分からないからこそ、そこに価値がある。
- ② 文学は、目に見える成果への渴望や、待ったなしの要請や強圧のある中で、すぐさま成果がかたちになりにくいものである。
- ③ 文学は、人間の想像力や感性を育て、美意識や感受性、感性を養い、それらを磨きあげる力をもっている。
- ④ 従来の家族や共同体が変質したり解体してきたことで、表現の定型が失われたため、文学はもはや必須の教養ではない。
- ⑤ 文学は、人間の最も根元的な表現の行為である、広い意味での「うた」と「ものがたり」に集約される。
- ⑥ 文学は、常にほかの作品やジャンルを意識しているが、同じ時代や社会、共同体で制作されたものは意識しない。
- ⑦ 文学は、いつの世にも常に必要とされてきているが、すぐには眼に見える成果が得られない点で、他のものにくらべて劣っている。

問5 傍線部イ「功利的な即効性への過信と過剰な期待があり」とあるが、これはどのような意味か。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から選べ。解答番号は16。

- ① 物事の進め方に無駄がなく能率的であることを優先し、すぐに効果が出ることを必要以上に信じ過ぎたり期待し過ぎたりする。
- ② 自明な真理として証明を必要とせず、ともかくすぐに効果があらわれることを信じて大いなる期待をかける。
- ③ 幸福と利益を社会や人生の最大目的として、進歩の視点から未来を輝かしくとらえ、早くききめがあらわれることを必要以上に信じ過ぎたり期待をかける。
- ④ その行為が自分の利益になるかどうかを先ず考え、事実の解明を二の次にしてすぐに結果が出ることを優先し、そのことが最も価値があることだととして、必要以上に期待する。
- ⑤ 物事を行う際に、利益、効果が上がるかどうかを中心に考え、すぐに効果があらわれることを、必要以上に信じ過ぎたり、また期待をかけたたりする。

問6 傍線部ウ「脈々と」、オ「身をゆだねる」の本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中から、それぞれ一つずつ選べ。解答番号はウ＝17、オ＝18。

ウ) 脈々と

- ① できどきするように
- ② 筋道が通っていて
- ③ 希望が失われたまま
- ④ つながりが細いまま
- ⑤ 途絶えることなく絶えず

(オ) 身をゆだねる

- ① 我が身をゆさぶる
② 我が身をまかせる
③ 我が身を制御する
④ 我が身を逃避させる
⑤ 我が身を役立てる

問7 傍線部(エ)「定型表現や決まり文句、諺や故事成語など」とあるが、次にあげるア～オの、いずれも人間の身体の部分をもとにした諺や語句の意味として最も適当なものを、後の①～⑩のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答番号はアⅡ 19、イⅡ 20、ウⅡ 21、エⅡ 22、オⅡ 23。

- ア 目をむく
イ 二の足を踏む
ウ 口がすっぱくなる
エ 鼻にかける
オ 濡れ手で粟

- ① 白状する
② 自慢する
③ 多忙だ
④ 怒る
⑤ 自分で責任をとる
⑥ 関係をたつ
⑦ 進むのをためらう
⑧ 同じ言葉を繰り返す
⑨ 労少なくて得るところの多いこと
⑩ 知識をひけらかす

問8 空欄 c (二箇所)には「タイショウウカ」という語が入る。その漢字として最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 24。

- ① 対照化
② 対称化
③ 対償化
④ 大勝化
⑤ 対象化

第2問 次の文章を読んで、後の問い(問1〜8)に答えよ。

谷口謙太郎は、会社でリストラの候補になり、屈辱的な研修に耐えている。妻の真由子とひとりっ子の清人との三人家族である。清人は、高校受験を控えた中学三年生から引きこもりとなり、結局、高校へは行かなかった。その後、事故で片足をなくしてから、さらに外に出なくなる。そんな清人が、珍しく出かけたと言うので、日曜日に、三人は揃って街にでる。清人は、とある本屋の店先に貼ってあった片足のダイバーのポスターを見て興奮する。清人が欲しがるので、謙太郎は店員に無理を言ってそのポスターをもらい、店にあるダイビング入門書と専門誌をすべて買って家に帰る。

高円寺の駅はずれ、早稲田通りをわたった先に謙太郎の一戸建てはある。親からの援助で頭金をかなりの額払いこんでいたが、それでもまだ十三年分のローンが残っていた。十三年後自分は還暦まであと一年、当然今の会社を離れていることだろう。どのように生活費と住宅ローンをクメンして①いるか予想もつかなかった。

清人は三十二歳になっていないはずだ。この子は社会にでて働くこともなく、結婚もせずにそのときを迎えてしまうのだろうか。夫婦のあいだではこの先清人がどう変わるかわからないと話していたが、謙太郎は心のなかでその状況を受け入れる決心をしていた。この子はもう変わることはないだろう。引きこもりと左足の切断。もともと弱かった心がなんとかそれに耐えて命をつないでいるだけやしとするしかない。

リヴィングルームのソファで日曜夕方のスポーツ番組を流し見していると、内線電話が鳴った。真由子が取る。通話口を押さえていった。「あなた、清人が話があるから部屋にこいって」

謙太郎は真由子に続いてゆっくりと二階にあがった。ふたつ鍵のついた部屋の扉をノックする。

「おとうさんもきたわよ」

なからから返事がなかったので、真由子はおそろおそろ扉を開けた。以前、そうやって部屋に入ったときに、ガラスのカタマリの置物を投げられたことがあったのだ。だが、清人は上キゲンだった。学習机にむかい、プリンターに手を伸ばしている。机の正面には先ほどの青いポスターが貼ってあった。清人は椅子をまわして振りむいた。

「ダイビングをやってみたい。雑誌で見たけど九月から十一月くらいまでが、水もあったかくて海も空いてて、ダイビングのベストシーズンなんだって。いいだろ、ダイビング始めても」

そういつてプリントアウトを一枚、謙太郎にさしだした。謙太郎は息子の目を見ずに受けとった。

「それ、ネットで調べたダイビングスクールの番号なんだ。電話かけて、片足がなくても講習を受けられるか、確かめてよ」
当然のように清人はいった。数字の列はぎっしりと三十行以上は並んでいた。真由子がいって。

「でもけっこうお金がかかるんでしょう」
清人はけろりという。

「最初に全部機材をそろえたほうが結局は安くつくんだって。五十万くらいじゃないか。ぼくは片足がないから、特別^④シヨウでもうちよつとかかるかもしれないけど」

「そんな大金」

真由子がなにかいおうとすると、清人は目をつりあげた。声は低く抑えられている。

「もう話は終わったんだよ。さっさと部屋からでていってくれ」

真由子は謙太郎を振りむいて言った。

「でも、おとうさん」

謙太郎は黙って部屋をでると階段をおりていった。真由子は息子の部屋の扉を閉めると、謙太郎の背中に入った。

「いいんですか、あんなわがままいわせておいて」

わがままはいつものことではないか。謙太郎は腹のなかでそう思ったが、何もいわなかった。リヴィングにもどり、電話を取る。夕食まえに済ませておくには、すぐに取りかかったほうがいいだろう。

謙太郎は年季のはいったソファで背中を丸め、最初のダイビングスクールの番号を押した。

プリントアウトのうえには赤いボールペンのバツ印ばかり増えていった。どこも最初は愛想がいいのだが、清人の足が不自由なことを伝えるととたんに態度が冷淡になった。自分のスクールではかまわなけれど、いっしょに受講するほかの講習生に迷惑がかかるといけないから。^④断りの文句までみな同じだった。

だが、謙太郎はあきらめなかつた。^⑤耐えることとねばること。それは中年期を迎え、第二の天性になろうとしている。謙太郎は黙々と十七番目の番号を押した。張りのある声がちいさなスピーカーからあふれだした。

「はい、ココナッツグローブです」

十数回繰り返し返したせいで滑らかなになった口調で、清人の事情を説明した。相手はときどきあいづちをはさみながら、きちんと話をきいているようだった。最後に左足が大^{たい}腿骨のほほ中央で切断されていること、事故のショックでひどくわがまままで精神的に不安定になっていることを淡々と告げた。謙太郎は祈るような気持ちで返事を待った。

「わかりました。来週の週末にいらしてください。講習の様子を見学してもらって、ご本人が本気でやってもいいというなら、^⑤シユジイのかたの健康診断書をもらって、そのつぎの週から始めましょう」

謙太郎はソファのうえでまだ会ったことのない相手に頭をさげていた。

「ありがとうございます。十七本目の電話だったんです。ようやく見つかつた」

「そうですか。たいへんでしたね。わたしはシニアインストラクターの笹岡俊介といいます」

「谷口謙太郎です。よろしくお願ひします」

電話を切るとすぐに内線のボタンを押した。しばらく呼びだし音が鳴って清人がでる。謙太郎の声は抑えてもはずんでしまった。「受け入れてくれるスクールがあつたぞ。おかげで二十本近く電話をかけたよ」

電話の背後にはシンセサイザーのファンファーレが流れていた。新しいゲームのオープニングの場面のようなのである。清人は鼻でこたえた。

「ぶーん」

礼もいわずにぶちりと通話が切れた。謙太郎は淋しく笑ってあきらめた。ゴルフはしないのだが、日曜日のゴルフ中継にチャンネルをあわせる。優勝争いには興味はなかった。夏(キ)の終わりの芝の緑と広い空を眺めていたかったのである。

つぎの土曜日、谷口家の三人はリフトつきのミニヴァンで三鷹(ミタカ)にでかけることになった。清人は思ったとおりでかけるまえに、もうダイビングに興味がないとぐずったが、謙太郎はなんとか説き伏せていた。嫌ならやらなければいい。今日はただの見学で、講習を受けることはないのだ。第一足が不自由でも快く受け入れてくれたスクールに失礼じゃないか。すると清人はいった。

「どうせ、金儲けでやってるだけだろう」

謙太郎は一瞬心のなかでぐらりと動くものを感じたが、なんとか我慢した。ここで口げんかになれば清人は部屋にこもるだけだろう。感情がはいらないようにほそりという。

「いいじゃないか。金儲けのチャンスをやれば。どうせ年金で払うんだ。天下(ク)のまわりものだろう」

【石田衣良『青いエグジット』（『約束』角川書店）による】

問1 傍線部①～⑤に当たる漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中から、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 25 ～ 29。

① ク|メン

25

- ① 敵をク|チクする。
 ② ク|セツ十年、ついに新製品が完成する。
 ③ 突然の計報(フ)にゼツク|する。
 ④ クドクを積む。
 ⑤ 日曜ダイク。

② カタマリ

26

- ① 会社をカイ|コされる。
 ② 三年間、カイ|シユツセキだった。
 ③ カイトウ乱麻を断つ。
 ④ キンカイが強奪される。
 ⑤ サンカイの珍珠。

③ キ|ゲン

27

- ① 雑誌にキ|コウする。
 ② リンキ|オウヘンに対処する。
 ③ 新進キ|エイの建築家。
 ④ 仏教にキ|エする。
 ⑤ シンシユツキボツの怪盗。

④ シ|ヨウ

28

- ① ふたつのセンタクシ|がある。
 ② 提案のシユシ|を説明する。
 ③ 海外の企業にトウシ|する。
 ④ 社会ホウシ|に尽力する。
 ⑤ 既得權益をシ|シユする。

⑤ シュジイ

29

- ① セイジ生命を賭けた選挙。
② アクジ千里を走る。
③ 世間のジモクを集める。
④ 母のジアイ。
⑤ サンプルをジサンする。

問2 傍線部(ア)、(カ)、(ク)の語句の本文における意味内容として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。
解答番号は 30 32。

(ア) 還暦

30

- ① 数え年四十二歳のこと。
② 数え年六十一歳のこと。
③ 数え年七十歳のこと。
④ 数え年七十七歳のこと。
⑤ 数え年八十歳のこと。

(カ) 鼻でこたえた

31

- ① 相手の言葉に感心したように装い、甘えるようにこたえたこと。
② 相手の言葉を深く受け止めたうえで、何か迷っているようにこたえたこと。
③ 相手の言葉に大げさに反応し、皮肉な感じを与えるようにこたえたこと。
④ 相手の言葉にろくに関心も無いかのように、冷淡な態度でこたえたこと。
⑤ 相手の言葉への不信感を表わし、苛々^{いらいら}した気持ちをぶつけるようにこたえたこと。

(ク) 天下のまわりもの

32

- ① チャンス
② 因果
③ 金
④ 報い
⑤ 苦勞

問3 傍線部イ「謙太郎は息子の目を見ずに受けとった」とあるが、その理由についての説明で、最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 33。

- ① ささいなことで精神が不安定になる息子におびえ、息子の要求に一刻も早く応えなければとあせったから。
- ② 息子のわがままと妻の不安に振り回されることに疲れ果て、はやくひとりになりたいということだけを考えたから。
- ③ 外の世界と関わりとうとしている息子の姿に希望を持ち、彼の気持ちが変わらないうちに話を進めなければ、と思ったから。
- ④ 息子の将来に不安を感じながらも何も有効なことができず、息子に対してきちんと向き合えない自分自身を深く恥じているから。
- ⑤ 息子に対して抱いている思いが伝わってしまうことを避け、衝突せずに平静な気持ちで言われたことを処理しようと考えたから。

問4 傍線部ウ「謙太郎は年季のはいったソファで背中を丸め」とあるが、この描写は、謙太郎のどのような姿を強調しようとしたものか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 34。

- ① 苦しき、悲しさに耐え続けて、やや疲れている姿。
- ② 人生経験を積んで得られる、世慣れた姿。
- ③ 苦難に直面してもへこたれない、闘志を秘めた姿。
- ④ ひたすらに家族の幸せを願う、優しい愛に満ちた姿。
- ⑤ 悩み抜いた末に達した、何事にも動じない悟りきった姿。

問5 傍線部エ「断りの文句までみな同じだった」とあるが、ここから謙太郎のどのような思いが読み取れるか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 35。

- ① 皆、示し合せたように同じ答え方をする、統制のとれたダイビングスクール業界に対する驚きと違和感。
- ② あくまでも金儲けを優先して弱者を切り捨てようとする、経営者たちに対する不信と軽蔑。
- ③ 他の受講生と自分たち（謙太郎・清人）との間で板挟みになって悩んでいる、担当者に対する同情と謝罪。
- ④ 責任を曖昧あいまいにしながら、障がい者を門前払いしようとする、世間の見えない壁の厚さに対する憤りと諦め。
- ⑤ 形式的な理屈を盾に柔軟に対処してくれない硬直した官僚的な組織に対する、苛立ちと徒労感。

問6 傍線部(オ)「耐えることとねばること。それは中年期を迎え、第二の天性になろうとしている」とあるが、これはどのようなことを表わそうとしたものか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 36。

- ① 謙太郎の本来の人間性が、耐えることとねばることを繰り返す努力の積み重ねによって、より磨かれたということ。
- ② 謙太郎が中年期になって実行している耐えることとねばることは、他人を意識してのことで、本物ではないということ。
- ③ 謙太郎の人生が中年期を迎えて、耐えることとねばることが自然にできるようになるくらいに、苦労の連続だということ。
- ④ 謙太郎が、耐えることとねばることを宿命と考えることで、何とかその苦しい人生をやり過ごそうとしていること。
- ⑤ 謙太郎がもともと持っていた、耐えることとねばることを苦にしない資質に、中年期になって気づいたということ。

問7 傍線部(キ)「夏の終わりの芝の緑と広い空を眺めていたかったのである」とあるが、ここからどのような謙太郎の気持ちを読み取れるか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 37。

- ① 明るい光と鮮やかな色彩に満ちた光景を眺めることで、苦難に立ち立ち向かう活力を得ようとした。
- ② さわやかで広々とした光景を眺めることで、しばし日常を忘れ、ふさいだ気分を少しでも晴らしたかった。
- ③ 夏の終わりの美しくも切ない光景を眺めることで、現在のような苦労のなかった、幸せな日々の思い出に浸ろうとした。
- ④ 一点の曇りもないまぶしい光景を眺めることで、暗い感情に支配されがちな自分の心を浄化しようとした。
- ⑤ 明るくさわやかな光景をゆったりと堪能することで、困難な仕事をやり終えた達成感をじっくりと噛みしめたかった。

問8 この文章における語り手について述べた説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 38。

- ① 語り手は、登場人物とは異なる第三者の立場だが、謙太郎に寄り添い、登場人物の中で謙太郎の気持ちだけを内側から語る。
- ② 語り手は、登場人物には見えない透明な存在であり、登場人物それぞれの行動や心理を公平に客観的に語る。
- ③ 語り手は、登場人物の知らないことまで見通せる神のような存在であり、三人の登場人物の運命を読者に先取りして暗示する。
- ④ 語り手は、作者自身と考えられ、自らが考えた登場人物の気持ちや話の筋を、自ら読者に直接語りかけている。
- ⑤ 語り手は、登場人物でもある謙太郎であり、一人称で、自分の見たものや気持ちを、いきいきと語る。